

図書便り(2月号)

令和7年(2025年)2月20日(木)発行

文責 山瀬

～長距離走大会お疲れ様です～

長距離走大会お疲れ様でした。8キロを一緒に歩きましたが、沿道から地元の方や保護者の方から沢山の応援をいただきました。腕につけた黄色いリボンに興味を持たれ、質問された方に「私たち定時制の生徒です」とお答えすると「頑張って」と励ましの言葉をもらいました。最後まで、楽しく歩くことができました。

さて今年度も残り一ヶ月です。来年度に向けてやり残したことがないように残りの時間を過ごしていきましょう。図書室も来年度に向けて、本の整理を行っています。ぜひきれいになった本を手にとって下さい。

🌸 図書案内 🌸

人とのつながりをテーマに選びました。気になる本がありましたら、定時制図書室まで。

『既読スルー被害者ポジション罪悪感
で支配「ずるい攻撃」をする人たち』

大鶴 和江(著)



目の前で大きなため息、大切な情報を教えてくれない、「あなたより私の方がかわいそう」と話を奪ってしまう。無意識に行われるイヤな攻撃に対してどのように対処すればいいのか。またどうしてそのような攻撃をしてしまう人がいるのかを教えてくださいの本です。

『卵の緒』

瀬尾 まいこ(著)



捨て子だと思ふ「ぼく」。理由は母さんがへその緒を見せてくれないから。何度言っても見せてくれず、代わりに卵の殻を見せてくる。ばあちゃんやじいちゃんに真相を聞いても、怪しい反応をする。きっとぼくは捨て子に違いない。

家族のつながりを描いてきた瀬尾まいこによる親子の絆の短編物語です。

『きみが住む星』

池澤 夏樹(著)

エルンスト・ハース(写真)



旅に出たぼくからきみに送られてくる絵手紙。最後には必ず「バイバイ」の文字が書かれている。世界中を旅するぼくは、行く先々から手紙を送る。それを読むと、一緒に旅をしたように感じます。

『環と周』

よしなが ふみ(著)



家族、恋、友情…。「環」と「周」は姿や性別、年齢が違ってもそれぞれの時代で出会い、そしてお互いを思い合う。不思議な縁でつながれた二人の物語。短編で描かれているため読みやすい漫画です。